

第2学年国語科学習指導案

日時 令和3年10月15日(金) 5校時

授業者 1組 戸來 律子 2組 徳田 智仁

学習者 2年1組 27名 2年2組 27名

- 1 単元名 そうぞうしたことを、音読げきであらわそう
教材名 「お手紙」(光村図書 2年下)

2 単元について

(1) 児童について

これまで児童は、登場人物の行動を中心に場面の様子を想像するという学習を、1年生から重ねてきている。2年上「ふきのとう」では、登場人物の言動や出来事を捉え、声の大きさや速さなどを考え、会話文と地の文を分けて役割読みをする活動を経験している。「スイミー」では、物語の構成を捉え、人物の言動や出来事をもとに、あらすじをまとめる学習を行っている。

音読については、ほとんどの児童は意欲的に取り組み、学習が進むにつれて発音が明瞭になり、語や文のまとまりを意識するようになってきた。しかし、内容を読み取って適切な声の大きさと表現する力は、まだ十分とは言えない。そこで、場面の様子を捉える読みの力を育て、行動の理由や表情、口調、様子を具体的に想像し、音読にいかせるようにする必要がある。

自分の考えを伝え合う場面では、自分の考えたことをペアで紹介し合い、全体の場で発表する経験を積んできている。自分とは違う考えを聞いたり、自分の考えがまとまらない時参考にしたりする良さを感じている。

(2) 教材について

第2学年「C 読むこと」の指導事項は、「エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること」、「知識及び技能」の指導事項は、「ク 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読すること」である。

「お手紙」は、二人の登場人物の会話によって物語が展開していく。「初め」がまくんの家の場面、「中」かえるくんの家の場面、「終わり」がまくんの家の場面の3場面であり、場所や時間の移り変わりがはっきりしている。友達の不幸せと一緒に悲しみ、幸せを共に喜ぶほのぼのとした心情が描かれており、友達どうしの心の交流は、読み手までも幸せにさせる。共感をもって読み取らせたい作品である。会話文を中心に読むことで人物の気持ちを捉え、それに合わせた音読の表現を工夫するのに適した教材である。

(3) 指導にあたって

本単元は、音読劇での読み方や動きを工夫し、その根拠となる言葉について考えることで、人物の行動と様子を詳しく読み、気持ちを想像することをねらいとする。

本単元は、文学的文章の「お手紙」と、「この本読もう」で構成され、「音読劇をする」という言語活動になっている。初めに、題名や挿絵、リード文から、物語の内容を想像させ、単元のめあてを設定し、読むだけでなく音読劇をするという見通しをもたせ、意欲を高めていきたい。次に、物語の展開に沿って、場面ごとに二人の行動と気持ちがどう変わっていくかを読み取っていく。

本時は、会話の際の二人の位置、距離、しぐさ、顔の向き等を考えさせることで、二人の気持ちを読み取らせ、「心の声」としてまとめ、まとめの音読で表現させたい。また、お手紙を待つ

冒頭と終末の二つの場面の違いを、挿絵や叙述から読み取らせ、細かい点に注意しながら作品を味わう指導も合わせて行い、物語の読み方にも触れていきたい。

最後に、前時までに読み取った事を生かし、音読劇に向けて準備や練習をしていく。グループを作り、助言し合ったり友達の読み方を参考にし合ったりさせたい。楽しみながら学び合い、高め合うという関わりあいから、読み取ったことを共有できる良さを感じさせたい。

3 単元の指導計画

(1) 目標

○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。

〔思考力・判断力・表現力等〕 C (1) エ

○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。

〔思考力・判断力・表現力等〕 C (1) カ

○語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。〔知識及び技能〕 (1) ク

○言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。 「学びに向かう力、人間性等」

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
① 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1) ク	① 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 C (1) エ ②文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。 C (1) カ	① 粘り強く場面の様子に着目して読み、学習課題に沿って、登場人物の行動を具体的に想像しながら音読劇に取り組もうとしている。

(3) 指導と評価の計画 (全12時間)

時	目標	主な学習活動	伝え合う活動(形態)	評価規準・評価方法
1	○学習の見通しを持ち、音読劇をするという単元のめあてにむけて取り組もうとすることができる。	・題名や挿絵から物語の内容を想像し、自分の生活と合わせながら意欲を持つ。 ・これまでの学習を想起し、音読劇の活動を理解する。	・題名や挿絵、リード文から想像したことを交流する。 (全体)	
2 ・ 3	○場面の違いや言動の主語を捉え、内容の大体を理解することができる。	・「お手紙」を読み、場所に注目して場面を分ける。 ・登場人物が行ったことや言ったことを整理する。	・会話文に誰が言ったことかの印をつけ、交流する。 (ペア→全体)	【思考・判断・表現①】 <u>ワークシート記述</u> 場面の違いや、登場人物の行動など内容の大体を捉えているか確認する。 【知識・技能①】 <u>音読</u> 語のまとまりに気をつけて音読しているか確認する。

4 ・ 5	○第一場面を読み、登場人物の行動から、気持ちや表情を想像することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・第一場面の登場人物の様子を具体的に想像し、なりきって音読する。 ・悲しい気持ちになっている二人の心の声を考える。 ・会話の言い回しから気持ちを想像し、音読の工夫を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二人の悲しい心の声について書いたことを交流する。 (ペア→全体) ・役割音読をする。 (ペア) 	<p>【思考・判断・表現①】</p> <p><u>発言・ワークシート記述</u></p> <p>登場人物の行動やその理由、表情、口調、様子などを想像しているか確認する。</p>
6	○第二場面を読み、かえるくんの家での様子や気持ちを想像することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・第二場面の登場人物の様子を具体的に想像し、なりきって音読する。 ・かえるくんの様子を表した地の文のテンポに着目し、音読の工夫を考える。 ・かえるくんが急いですがまくんへの手紙を書いた心の声を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かえるくんの心の声を書き、交流する。 (ペア→全体) ・役割音読をする。 (ペア) 	<p>【思考・判断・表現①】</p> <p><u>発言・ワークシート記述</u></p> <p>登場人物の行動やその理由、表情、口調、様子などを想像しているか確認する。</p>
7 ・ 8 (本 時)	○第三場面を読み、登場人物の具体的な様子や気持ちを想像することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・第三場面の登場人物の様子を具体的に想像し、なりきって音読する。 ・窓の外を何度も確認するかえるくんとがまくんの気持ちの変化を捉える。 ・幸せな気持ちで手紙を読んでいる二人の心の声を考える。 ・手紙を待っている間の二人の会話を想像する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二人の幸せな心の声を書き、交流する。 (ペア→全体) ・役割音読をする。 (ペア) 	<p>【思考・判断・表現①】</p> <p><u>発言・ワークシート記述</u></p> <p>登場人物の行動やその理由、表情、口調、様子などを想像しているか確認する。</p>
9	○音読したい部分を決め、学習したことから、音読の工夫を考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・音読したい部分をノートに書き写し、読み方や動きについての工夫を考える。 ・考えた工夫に気をつけながら音読をする。 		<p>【思考・判断・表現①】</p> <p><u>発言・ワークシート記述</u></p> <p>登場人物の行動や、表情、口調、様子などを想像して、音読しているか確認する。</p>
10	○自分で考えた音読の工夫をグループで交流し、良さや感想を伝え合うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループになって、前時に考えた音読の工夫を紹介し合う。 ・グループごとに練習し、グループの音読劇を見せ合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に考えた音読の工夫を紹介し合う。 (グループ) ・音読劇を見せ合う。 (グループ) 	<p>【思考・判断・表現②】</p> <p><u>発言</u></p> <p>友だちの音読を聞いて、読み方や動きについて思ったことを伝え合っているか確認する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p><u>音読</u></p> <p>これまでの学習を生かし、想像したことを音読劇に表そうとしているか確認する。</p>

11	○友達の意見から自分の音読の工夫について考え直し、改善しようとすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに前時で交流した意見を元に、音読の工夫について再考する。 ・グループで考えた工夫を元に、練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に交流した意見をもとに、再度音読の工夫を検討する。 (グループ) 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p><u>観察・音読</u></p> <p>友達の助言や工夫から自分の読み方を考えて音読劇をしようとしているか確認する。</p> <p>【思考・判断・表現②】</p> <p><u>発言</u></p> <p>読み方や動きについて思ったことを伝え合っているか確認する。</p>
12	○これまで学んだことをいかして音読劇を発表し、それぞれの発表について感想を持つことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに音読劇を発表し、感想を交流する。 ・学習の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読劇を発表し、感想シートを書く。 (全体) ・学習を振り返って、物語についてのまとめを交流する。 (全体) 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p><u>観察・音読</u></p> <p>これまでの学習をいかし、想像したことを音読劇に表そうとしているか確認する。</p> <p>【思考・判断・表現②】</p> <p><u>発言</u></p> <p>友達の発表を聞いて、読み方や動きについて、感想を伝えているか確認する。</p>

4 本時の指導（8 / 12時）

(1) 本時の目標

第三場面を読み、登場人物の行動や様子を具体的に想像することができる。

(2) 本時の評価規準（学習者の姿）

概ね満足できる姿	がまくんの家での二人の様子や心の声を捉え、表情、口調などに気をつけて役割音読ができる。
努力を要する学習者への支援	重要な語句や二人の気持ちに関わることを板書に書き留め、音読をする際にそれらを確認することができるようにする。

(3) 本時の展開

段階	学習活動 (○主発問 ・予想される学習者の反応)	指導上の留意点 評価方法
導入 5分	1 前時までの学習を振り返る。 2 本時の課題を確認する。 ③ 3ばめんの二人のようすをそうぞうし、なりきって音読しよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習を掲示しておく。 ・学習の手順を確かめる。
展開 35分	3 学習範囲を音読する。 4 がまくんの家での二人の様子を読み取る。 ○かえるくんはなぜ手紙の内容を伝えようと思ったのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・がまくんを元気づけたかったから ・はやくがまくんに伝えたかったから。 ○がまくんの「きみが。」や「ああ。」などの台詞の言い方を考えてみましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・うれしそうに言った ・驚いたように ・感動したように言った 5 p 22の挿絵と p 14の挿絵をくらべ、二人の心の声を書く。 ○前に見た手紙を待つ二人の絵と今回の絵を比べるとどのような違いがありますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・二人が肩を組んでいる。 ・二人とも笑っている。 ○幸せな気持ちで座っている二人の心の声を書いてみましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・がまくん……かえるくんという親友がいてうれしい。 手紙を書いてくれてうれしい。 ・かえるくん…がまくんが喜んでくれてよかった。 ○二人はかたつむりくんを待っている間どんな話をしていたと思いますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・お手紙楽しみだなあ。 ・今度はぼくがかえるくんにお手紙出してあげる。 6 役割音読をする。 ○なりきって音読したとき、どんなことに気をつけて読みましたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・「ああ。」という台詞をうれしそうに読んだ。 ○二人の様子や心の声など想像したことをもとに、なりきって音読をしましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に学習した、かえるくんが何度も窓をのぞいている様子やがまくんの棘のある言葉からがまくんのためのことだったと気がつくようにする。 ・実際にかえるくんの手紙を準備し、児童の前で読むことで、がまくんの視点から考えやすくする。 ・適宜感嘆符や疑問符などを用いて、視覚的な理解も促す。 ・はじめに視覚的な違い(様子、表情など)に着目することで、二人の気持ちの変化を捉えることができるようにする。 ・文中の「しあわせな気持ち」に着目し、二人の感じる幸せが違うことも確認する。 <p>〈伝え合い〉 〈ペア→全体〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアの伝え合いでは、がまくんとかえるくんの幸せの違いについて確認し合い、二人の心の声をより具体的に想像する。 ・全体の伝え合いでは、数ペアの意見を紙板書に書留め、音読の際のヒントにできるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【思考・判断・表現①】 <u>発言・ワークシート記述</u> 登場人物の行動やその理由、表情、口調、様子などを想像しているか確認する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・読み終わったら、役割を交換して様々な人物になりきって音読できるようにする。

終 末 5 分	<p>7 本時を振り返り、次時の見通しを持つ。</p> <p>○「わがともよ」について振り返りをしましょう。</p>	<p>・本文の台詞をどのように言ったかということ を振り返り、次時以降の音読劇への 足がかりを築く。</p>
------------------	--	--

(4) 板書計画

音読のくふう

p 2 1
の挿絵

お手紙

二人の心の声をこめる。明るく読む。

がまくんが喜
んでくれてよ
かった

手紙を書いて
くれてうれし
い

p 2 2 の挿絵

p 1 4 の挿絵

・かたを組ん
でいる

・えがお

③ 三ばめんの二人のようすをそうぞうして、なりきって音読をしよう。

アーノルドローベル さく